

平成23年度国土地理院近畿地方測量部の取り組み

近畿地方測量部は、近畿地方における公共測量の調整等に関する測量行政、基本測量事業の実施及び地域連携による基盤地図情報等の更新・活用を図り、地域社会の発展に寄与する施策を実施しています。

特に平成23年度は、作業規程の準則の一部改正、測量業務の入札における総合評価落札方式の適用及び産官学の連携によるG空間EXPO「関西G空間フォーラム」の開催など、近畿地方測量部の取り組みについて、トピックスと主な業務に区分して以下に紹介します。

1. フレッシュマップ2011

ー地理空間情報の整備・活用推進行動計画ー

地理空間情報を高度に活用できる社会の実現に向けて、国土地理院の使命は、利用者に価値のある使いやすい地理空間情報を提供することであり、中でも基盤地図情報及びそれを骨格とする電子国土基本図（以下「電子国土基本図等」という。）の整備・更新と活用推進は、国土地理院の最重要施策の1つです。

国土地理院ではこのたび、電子国土基本図等に関する施策の具体的な目標を共有し、その上で外部の関係者に連携協力を働き掛けて、地理空間情報の高度な活用を推進することを目的として、2013年度（平成25年度）末までの活動内容を「フレッシュマップ2011」（電子国土基本図を中心とした地理空間情報の整備・活用推進行動計画）として策定しました。

これに基づき、具体的な事業を次のように進めることとしています。

○電子国土基本図等の活用推進のための取り組み
国及び地方公共団体の公共施設整備・管理者や民間事業者等を対象として、電子国土基本図等を活用するための仕組みやツール等の他、関係者への説明資料等を提供するなどの活用推進に向けての取り組みを実施します。

○電子国土基本図等の更新

面的更新（一定の地域の情報を面的に更新する方法）と、迅速更新（特定の地物等の変化部分を更新する方法）とを効率的・効果的に組み合わせ、更新を進めていきます。

○地域における取り組み

電子国土基本図等の活用推進や、更新情報の的確な入手など公共施設整備・管理者等との連携を、地方測量部等が主体となって実施します。

これらにより電子国土基本図等の整備・更新と活用を推進していきます。

2. G空間EXPO

「関西G空間フォーラム」の開催

昨年11月21日と22日の2日間、大阪市西区の建設交流館において、G空間EXPO「関西G空間フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、本年6月に横浜市で開催が決定しているG空間EXPO2012のプレイベントとして、関西における地理空間情報についての現状を認識するとともに、産学官の間で共有化を図り将来を展望することを目的として、近畿地方測量部の呼びかけをきっかけに、産学官の連携により関西で初めて開催されたものです。



関西G空間フォーラム開会式

本フォーラムは、近畿地方測量部、(社) 地理情報システム学会関西支部、(社) 日本写真測量学会関西支部、(社) 大阪府測量設計業協会の4団体により主催され、以下の4つのシンポジウムにより構成されました。

①第30回測量技術講演会



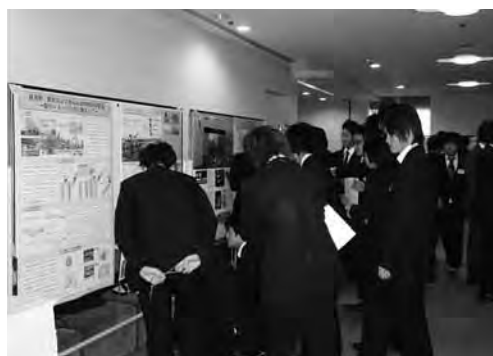
第30回測量技術講演会

②第12回関西地域GIS自治体意見交流会



第12回関西地域GIS自治体意見交流会

③若手技術者・研究者のための技術研究発表会
2011年度大会



若手技術者・研究者のための技術研究発表会2011年度大会

④地理空間情報関連の機器・システム等の展示会



地理空間情報関連の機器・システム等の展示会

参加者は、主に関西全域の自治体職員、研究者、測量等業者の産学官の地理空間情報の関係者で360名以上の参加があり、フォーラム開催にしたことにより同一日の複数のシンポジウムに参加できるなどの利点がありました。

また、各シンポジウムは活発に進行され、フォーラム開催の目的とした産学官関係者への地理空間情報の現状と将来の展望に関する情報発信を行うことができ、参加者の理解と交流の場として機能し、第1回目の関西G空間フォーラム開催は成功を収めることができました。今後は、本フォーラムのさらなる発展を目指していきます。



関西G空間フォーラム閉会式

3. 台風12号による豪雨災害に関する対応

国土地理院では台風12号に伴う豪雨災害に関して、緊急かつ迅速に災害対応業務を実施できるよう、平成23年9月1日に注意体制を発令し、9月4日には警戒体制へ、9月7日には非常体制へと体制の強化を図り災害対応に取り組みました。

主な対応には、以下のものがありました。

- ①奈良県および和歌山県現地政府調査団への職員派遣による現地災害状況の調査
- ②通信が断絶した電子基準点の緊急現地調査
- ③国土地理院保有の「くにかぜⅢ」による被災地域の空中写真撮影（撮影日：9月6日、7日、13日、14日）
- ④関係機関に対しての災害対策用地図等の提供

空中写真撮影は、近畿地方整備局と国土地理院が連携し作業を実施しました。撮影した空中写真は、撮影日の翌日に関係自治体等へ提供するとともに、国土地理院のホームページで公開をしています。

(<http://zgate.gsi.go.jp/SaigaiShuyaku/20110906/index2.htm>)

さらに、空中写真から判読した、河道閉塞、土砂崩れ、土石流、家屋被害等の場所及び被災情報等について、災害情報共有マップとして公開しています。

(<http://saigai.gsi.go.jp/2011typhoon12/index.html>)

あわせて、空中写真から河道閉塞地の崩落状況等について解析を行い、関係機関へ提供しました。

4. 基準点成果表の表記方法の変更

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」による地殻変動により、測定の基準である日本経緯度原点と日本水準原点が移動したため、原点数値の改正が平成23年10月21日に公布・施行され、大きな地殻変動が観測された地域の三角点約1900点及び水準点約1900点の現地測量結果を基に、約4万3千点の三角点位置及び約1900点

の水準点標高を10月31日に改定しました。

改正前の原点数値に基づく基準点測量成果表には、「世界測地系」と表記していましたが、今後、基準点測量成果表には、「世界測地系（測地成果2011）」と表記して下さい。

詳細は、国土地理院のホームページにおいて公開しています。

(http://psgs.v.gsi.go.jp/koukyou/public/jishin/kisai_rei.html)

5. 電子国土基本図(地図情報)更新事業

「フレッシュマップ2011」（電子国土基本図を中心とした地理空間情報の整備・活用推進行動計画）に基づき今後の電子国土基本図等の更新の方法としては、一定の地域の情報を面的に更新する方法である「面的更新」と特定の地物等の変化部分を更新する方法である「迅速更新」を効率的・効果的に組み合わせて全体の更新を進めることとしています。

特に迅速更新に際しては、公共施設整備者・管理者等と連携し、効率的に適時適切な更新を実施することが、公共施設の整備効果を高めるとともに、電子国土基本図等の精度・鮮度を確保する観点から重要であると考えています。

6. 測量業務の品質確保

国土地理院では、これまでも測量業務に関する入札の一部において総合評価落札方式を実施してきたところですが、測量業務の適切な実施と品質確保を図る観点から、より多くの測量業務の入札を平成23年度から総合評価落札方式で実施しました。

近畿地方測量部においても「国土調査に伴う基準点測量」を中心に7物件について総合評価落札方式を実施し、測量業務の適切な実施と品質確保を図っています。

7. 「東南海・南海地震防災セミナー」のご案内

国土地理院近畿地方測量部では、大阪府と共催

で「東南海・南海地震防災セミナー」を開催します。

本セミナーは、想定されている東南海・南海地震被害の軽減に向けて、国や自治体が行っている対策及び災害時の対応等について紹介することにより、地震・津波対策および災害復旧・復興活動に資することを目的として開催するものです。

セミナーの詳細につきましては、国土地理院近畿地方測量部のホームページ等でお知らせします。
(<http://www.gsi.go.jp/kinki/index.html>)

皆様のご来場をお待ちしております。

【主 催】 国土地理院近畿地方測量部、大阪府

【日 時】 平成24年2月9日（木） 13時～17時

【場 所】 大阪府庁 多目的ホール

（新別館北館4F）

大阪市中央区大手前二丁目

【入場料】 無料

【定 員】 300名（事前申込）

【内 容】

○ [特別講演]

関西大学社会安全学部 高橋智幸教授

・ 東日本大震災の津波被害を踏まえた
東南海・南海地震への備え

○ 国土地理院

・ 近畿地方の地殻変動の状況
・ 東日本大震災で発信した地理空間情報
・ 精密標高データや土地条件図を活用した
ハザードマップ作成

○ 近畿地方整備局

・ 大規模災害に備えた減災・防災への
取り組み

○ 大阪管区气象台

・ 地震・津波観測や地震速報・警報等

○ 大阪府

・ 大阪で取り組まれている防災対策等の
紹介

Column



（提供：豊田氏）

VLBIアンテナ

国土地理院に設置してある直径32mのVLBIアンテナ（右側）は、一時期つくば市のHPにも掲載されていたと聞きます。

地球から数十億年以上もの遠く離れた電波星からの電波を各国あるいは国内で同時受信することによって、受信位置相互間の距離を求めることができます。この観測を繰り返すことによって、定常的なプレート運動の速度を求めたりしています。